

1 はじめに

1.1 基本計画策定の背景・目的

現総合体育館は、昭和 60 年 11 月に地域文化広場を構成する半田市施設として、空の科学館との複合施設として建設され、多くの市民に親しまれています。

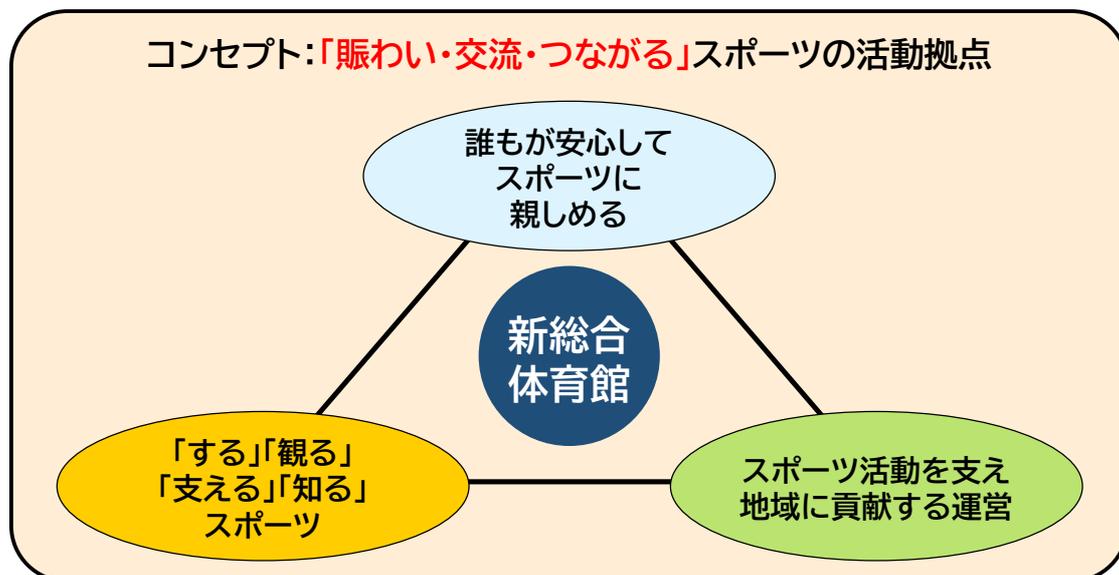
一方で、規模の不足や機能面での不便が指摘されるなど、市民・利用者や競技団体からのニーズを満たせていません。このような状況の中、半田市スポーツ協会から新体育館建設についての要望が提出され、新たな総合体育館の整備を進める必要性が高まってきました。

そのため、現総合体育館や本市を取り巻く現状と課題を整理・分析し、市民や関係団体からの意見聴取を行いながら、基本コンセプト、基本方針、施設規模の考え方、整備候補地を整理した「半田市新総合体育館基本構想」（以下、「基本構想」）を令和 7 年 3 月に策定しました。

本基本計画は、基本構想のコンセプトなどを基に、施設の運営方針や民間活力の導入、適切な施設機能の詳細や規模等を取りまとめることを目的とします。

1.2 基本構想の整理

新総合体育館整備に向け、上位関連計画や本市の社会体育施設の現況、市民・スポーツ関係団体の意向等を整理・分析し、他類似施設との比較も行いながら、令和 7 年 3 月に基本構想を策定しました。基本構想において示した新総合体育館のコンセプトは以下の通りです。



(1) 誰もが安心して利用できるスポーツの活動拠点

- ダイバーシティ、インクルージョンの理念にもとづき、体力や年齢、障害の有無、運動・スポーツを実施する目的などに依らず、誰もが安心して、自由に、スポーツに親しめる施設を目指します。
- 地域に根付き、スポーツを通じて市への愛着と誇り（シチズンシップ）の醸成を図れる施設を目指します。
- 市民及び広域的な利用団体の連携・協働を深めることができ、活動種目の垣根を越えて「市民がつながる場」としての施設を目指します。
- スポーツに限らず、文化芸術などの多様な活動を支える機能を持った施設を目指します。

(2)長期的にスポーツ活動を支え、地域に貢献する施設運営

- 地域のスポーツ団体や指導者等と連携した運営を目指します。
- 社会体育施設としての役割を果たすだけでなく、広義な意味で地域社会に貢献できる運営を目指します。
- 民間事業者が施設を活かした魅力ある自主事業（イベント等）を展開し、そこから得られる収入を維持管理、運営に活かす（マネタイズ）ことでよりよい運営を図り、行政支出を抑えることを目指します。
- デジタル（ICT）技術を活かし市民ニーズや施設の稼働状況、維持管理費の見える化等を促し、データ活用による効果的な運営を目指します。
- 省エネルギー型の設備の導入や再生可能エネルギーの導入を図り、SDGs 等の社会的ニーズに応えることができる施設を目指します。
- 施設の維持管理や運営面等における重複や非効率な事項は絶えず見直しアップデートさせることで、効率性・効果性の向上を目指します。
- 設計・建設段階から運営の考え方や方法を反映させた施設整備を図ることで、高いパフォーマンスが発揮できる運営を目指します。

(3)「する」「観る」「支える」「知る」スポーツの活動拠点

- 他のスポーツ施設との連携・集約による相乗効果を発揮し、スポーツの活動拠点としての「拠点機能」を持った施設を目指します。
- ライフスタイルや価値観の多様化とともに、生活の豊かさやクオリティ・オブ・ライフに対する意識が高まる中、体育機能だけでなく多様な機能を持った施設を目指します。
- 市民・利用者が集い、スポーツを観て楽しむことのできる施設を目指します。
- 運営主体者の考え方や運営方法を把握し、市民・利用者がスポーツに親しむことを支える運営が可能な施設を目指します。
- 部活動改革など、スポーツを取り巻く状況が変化する中においても、スポーツの機会を提供し、スポーツ実施率の向上や競技力の向上が図れる施設を目指します。
- 本格的な競技・スポーツに取り組むアスリートの育成パスウェイ（道筋）と、アスリート思考の人に安定した活動環境を提供できる施設を目指します。
- SNSやメディア、デジタルなどを用いたスポーツの情報発信を行い、スポーツを知る機会を増やせる情報発信拠点となる施設を目指します。